

小平図書館友の会主催 講演会

見えない山を登る ～シリア難民、生きる根を見つめて～

講師 小松由佳さん（ドキュメンタリーフォトグラファー）

【講師より】山に魅せられ、世界第二の高峰 K2(8611m/パキスタン)に日本人女性として初めて登頂した小松は、次第に風土に根ざす人間の暮らしに魅せられ、写真家へと転向します。その後、遊牧民の世界を訪ねて出会ったシリアが 2011 年以降に内戦状態となると、難民となっていく人々の取材を始めました。現在は、トルコ南部のシリア難民を継続して訪ね、難民を取り巻く状況の変化を取材しています。グローバル化が進む今、日本ではあまり報道されないシリア難民の現状について、皆様と考えていきたいと思ひます。

日時 2023 年 10 月 29 日（日）13:30～15:30（開場 13:00）

会場 小平市中央図書館 3階 視聴覚室

小平市小川町 2-1325（西武多摩湖線「青梅街道」駅下車 徒歩 5 分）

- ・感染防止対策をとって開催します。新型コロナ感染症の状況次第で中止する場合があります。
- ・ZOOM で講演の様子を同時配信します。視聴ご希望の方は、メールでお申し込みください。

定員 60 人（要申込・先着順）※お申し込みはできるだけメールでお願いします。

申込・問合せ先 メール kltomonokai@gmail.com（入山）TEL 090-4930-6028

➤ 申込受付開始 10 月 1 日から（厳守） ※メールアドレス 2 文字目は小文字“エル”

費用 無料

主催 小平図書館友の会 <https://kltomonokai.wixsite.com/my-site>

後援 小平市教育委員会



～ 小松由佳（こまつゆか）さん プロフィール ～

■1982 年秋田県生まれ。ドキュメンタリーフォトグラファー。

高校在学中から登山に魅せられ、国内外の山を登る。2006 年、“世界で最も困難な山”と称される世界第二の高峰 K2(8611m/パキスタン)に日本人女性として初めて登頂。植村直己冒険賞受賞(2006 年)。

■次第に風土に生きる人間の暮らしに惹かれ、2008 年よりシリアなど中東地域を撮影。2011 年からシリアの紛争によって多くの難民が生まれる光景を目にし、シリア難民の取材を始める。現在、シリア人の夫と二人の子供と東京都在住。夫の親族が暮らす、トルコ南部のシリア難民コミュニティを継続して取材。

■2022 年は 11 年ぶりに夫の故郷であるシリア中部パルミラを取材。2023 年 6 月には、2 月に発生したトルコ・シリア地震のトルコ側の被災地を取材。被災者の中には、シリアから戦火を逃れてトルコにやってきたシリア人も多く、一度シリアで失った生活を再び地震で失った。こうした人々の現状や被災地の今についてもお話いただきます。

■著書に『人間の土地へ』（集英社インターナショナル/2021 年 9 月）。第 8 回山本美香記念国際ジャーナリスト賞受賞、第 11 回モンベル・チャレンジ・アワード受賞など。



～ 講演内容（予定）～

- 世界第二の高峰 K2(8611m/パキスタン)登山と
登頂後のビバーク。
そして帰還。
- 「人間が土地に生きる姿」に惹かれ
ヒマラヤの世界を離れ
草原や砂漠へ。
- シリア内戦と難民。
- ドキュメンタリーフォトグラファーとしての現在の活動。

『人間の土地へ』 小松由佳／著

集英社インターナショナル 2020年9月発行

ISBNコード 978-4-7976-7389-0 (4-7976-7389-3)

税込価格 2,200円 251P 20cm

集英社インターナショナル 公式サイト より

<https://www.shueisha-int.co.jp/publish>



極限状況の人間を描くドキュメント！

日本人女性として初めて K2 登頂に成功した著者と、ラクダと共に生きるシリアの青年。砂漠で出会った二人を待ち受けていたのは、「今世紀最悪の人道危機」、シリア内戦だった。徴兵された青年は、同胞に銃は向けられない、と政府軍を脱走する。辿り着いた難民キャンプは安全だったが、生きる意味を見い出せず、戦火のシリアに舞い戻る。人間は何を求めて生きるのか？

シリア内戦を内側から見たノンフィクション。

【第 8 回 山本美香記念国際ジャーナリスト賞 受賞】